

# 宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

## 宮崎県第6週の発生動向

### 全数報告の感染症 (6週までに新たに届出のあったもの)

1類感染症：報告なし。2類感染症：結核3例。3類感染症：報告なし。4類感染症：報告なし。  
5類感染症：梅毒1例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型	症状等
2類	結核	宮崎市	80歳代	男	肺結核	痰
			90歳代	女	頸部リンパ節結核	リンパ節膿汁
		高鍋	80歳代	男	結核性胸膜炎	発熱
5類	梅毒	延岡	80歳代	男	晩期顕症梅毒	神経症状

### 定点把握の対象となる5類感染症

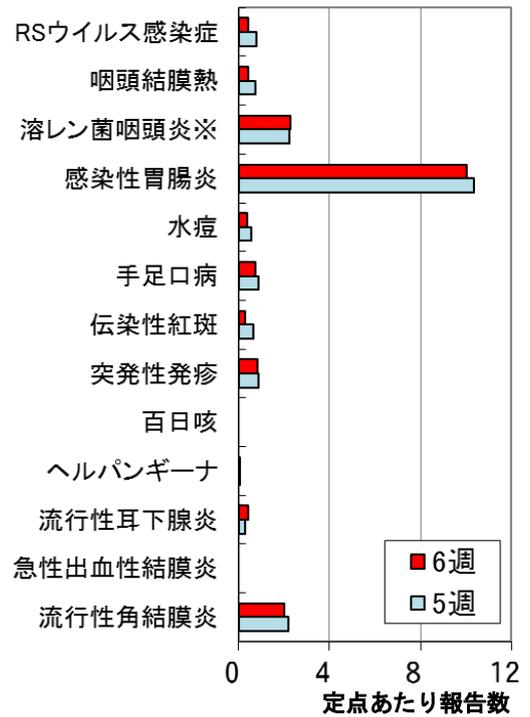
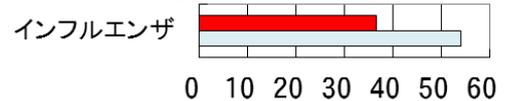
・定点医療機関からの報告総数は2,748人(定点当たり54.8)で、前週比74%と減少した。前週に比べ増加した主な疾患は流行性耳下腺炎で、減少した主な疾患はインフルエンザと伝染性紅斑であった。

#### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

##### 【インフルエンザ】

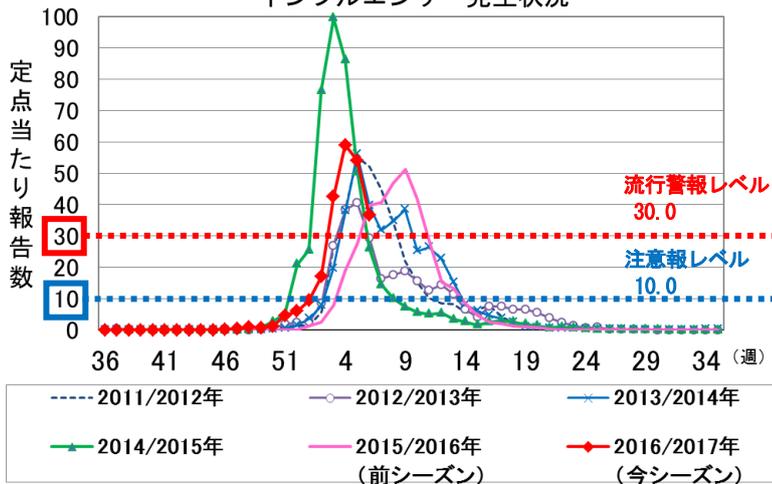
報告数は2,162人(36.6)で、前週比68%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値\*(37.7)の約1.0倍であった。延岡(54.7)、都城(40.3)、中央(39.0)保健所からの報告が多く、年齢別は5~9歳が全体の約3割を占めた。

《前週との比較》



※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

インフルエンザ 発生状況

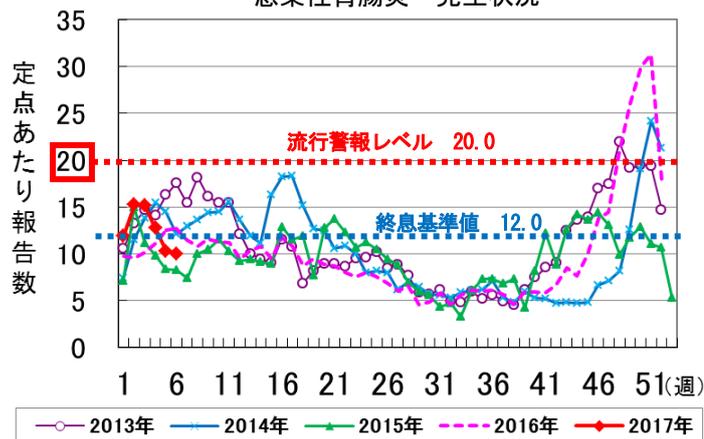


##### 【感染性胃腸炎】

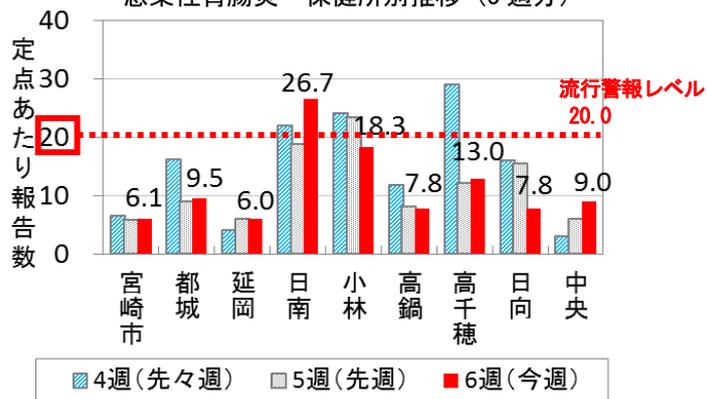
報告数は361人(10.0)で、前週比97%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点当たり平均値\*(12.3)の約0.8倍であった。日南(26.7)、小林(18.3)、高千穂(13.0)保健所からの報告が多く、年齢別は1~4歳が全体の約4割を占めた。

\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

感染性胃腸炎 発生状況



感染性胃腸炎 保健所別推移 (3週分)



★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎：宮崎市保健所から1例報告があった。0～4歳であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	インフルエンザ(38.3)
都城	インフルエンザ(40.3)
延岡	インフルエンザ(54.7)
日南	インフルエンザ(23.8)、感染性胃腸炎(26.7)
小林	インフルエンザ(31.0)
高鍋	インフルエンザ(29.0)
高千穂	インフルエンザ(38.0)
日向	インフルエンザ(26.8)
中央	インフルエンザ(39.0)

\*流行警報レベル開始基準値\*

- ・インフルエンザ(30.0)
- ・感染性胃腸炎(20.0)

\*流行注意報レベル基準値\*

- ・インフルエンザ(10.0)

□病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成29年2月13日までに検出)

★細菌 報告なし。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
コクサッキーウイルスA16型	0～4歳	男	2016.11.11	手足口病、口内炎	咽頭ぬぐい液	2017.02.01
コクサッキーウイルスA16型	5～9歳	男	2016.11.29	手足口病、37.9℃、口内炎、発疹	咽頭ぬぐい液	2017.02.01
ライノウイルス	10歳代	女	2016.11.11	ギランバレー症候群疑い、麻痺、下肢筋力低下	咽頭ぬぐい液	2017.02.01
パラインフルエンザウイルス3型	0～4歳	女	2016.11.19	突発性発疹、38.4℃、発疹(丘疹・紅斑)、咳、鼻水	咽頭ぬぐい液	2017.02.08
エコーウイルス6型	0～4歳	男	2017.01.14	ウイルス性胃腸炎、39.0℃、胃腸炎	便	2017.02.13
インフルエンザウイルスAH3	40歳代	女	2016.12.21	インフルエンザA型、37.5℃、関節痛、筋肉痛、上気道炎(咽頭痛)	鼻腔ぬぐい液	2017.01.31
インフルエンザウイルスAH3	60歳代	女	2016.12.26	インフルエンザA型、38.5℃、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2017.01.31
インフルエンザウイルスAH3	50歳代	女	2016.12.27	インフルエンザ、39℃、関節痛、咽頭炎	鼻汁	2017.01.31
インフルエンザウイルスAH3	10歳代	女	2016.12.26	インフルエンザA型、39.3℃、上気道炎(咽頭痛)、頭痛	鼻汁	2017.01.31
インフルエンザウイルスAH3	5～9歳	男	2016.12.27	インフルエンザA型、38.7℃	咽頭ぬぐい液	2017.01.31
インフルエンザウイルスAH3	0～4歳	男	2017.01.05	38.9℃、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2017.01.31
インフルエンザウイルスAH3	60歳代	女	2017.01.04	インフルエンザ、38℃、関節痛、上気道炎(咽頭炎)	鼻汁ぬぐい液	2017.01.31
インフルエンザウイルスAH3	0～4歳	男	2017.01.05	インフルエンザA型、38.3℃、上気道炎	鼻汁	2017.01.31
インフルエンザウイルスAH3	40歳代	女	2017.01.16	インフルエンザ、38.5℃、関節痛	咽頭ぬぐい液	2017.02.08
インフルエンザウイルスAH3	10歳代	男	2017.01.16	インフルエンザA型、発熱、関節痛、上気道炎(咽頭炎)	鼻腔咽頭ぬぐい液	2017.02.08
インフルエンザウイルスAH3	10歳代	男	2017.01.16	インフルエンザA型、39.0℃、上気道炎	鼻汁	2017.02.08
インフルエンザウイルスAH3	10歳代	男	2017.01.13	インフルエンザA型、39.4℃、上気道炎	鼻汁	2017.02.08
インフルエンザウイルスAH3	5～9歳	女	2017.01.16	インフルエンザA型、39.3℃、上気道炎	鼻汁	2017.02.08
インフルエンザウイルスAH3	0～4歳	女	2017.01.16	インフルエンザA型、38.9℃、上気道炎	鼻汁	2017.02.08
インフルエンザウイルスAH3	0～4歳	女	2017.01.17	インフルエンザA型、39.6℃、上気道炎(咽頭炎)、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2017.02.08
インフルエンザウイルスAH3	5～9歳	男	2017.01.18	インフルエンザA型、39.7℃、下気道炎(気管支炎)	咽頭ぬぐい液	2017.02.08
インフルエンザウイルスAH3	5～9歳	女	2017.01.25	インフルエンザA型、40.0℃、下気道炎(肺炎)、鑄型気管支炎	鼻汁	2017.01.31

○インフルエンザや下気道炎と診断された17名の咽頭ぬぐい液や鼻汁からインフルエンザウイルスAH3が検出された。今シーズン、当所で検出したインフルエンザウイルスは、現在のところ全てAH3である。2017年第1週～第5週の全国のインフルエンザウイルス分離・検出状況をみると、2017年2月10日の時点でAH3の検出割合が最も多く(92.7%)、次いでB型(5.6%)、AH1pdm09(1.7%)の順となっている。

○咳・鼻水の症状がある乳児の咽頭ぬぐい液から、パラインフルエンザウイルス3型が検出された。パラインフルエンザウイルスは1型から4型に分類され、主に1型から3型が人に呼吸器症状を起こし、1型・2型は主に上気道炎や下気道炎、3型は肺炎や細気管支炎からの報告が多い。パラインフルエンザウイルス自体は年間を通して検出されるが、3型は春から初夏にかけて多く見られるため、今後の動向に注意する必要がある。

## ✚ 全国 2017 年第 5 週の発生動向

### □ 全数報告の感染症 (全国第5週)

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	324 例				
3類感染症	細菌性赤痢	2 例	腸管出血性大腸菌感染症	9 例	腸チフス	1 例
4類感染症	E型肝炎	4 例	A型肝炎	3 例	エキノкокクス症	1 例
	つつが虫病	5 例	デング熱	1 例	マラリア	1 例
	レジオネラ症	13 例				
5類感染症	アメーバ赤痢	12 例	ウイルス性肝炎	2 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	24 例
	急性脳炎	13 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	3 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7 例
	後天性免疫不全症候群	9 例	ジアルジア症	1 例	侵襲性髄膜炎菌感染症	1 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	47 例	水痘 (入院例)	2 例	梅毒	55 例
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2 例	風しん	2 例	麻しん	6 例

### □ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 97%とほぼ横ばいであった。前週と比較して増加した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎と流行性耳下腺炎で、減少した主な疾患は感染性胃腸炎と水痘であった。

インフルエンザの報告数は189,231人(38.1)で前週比97%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点当たり平均値\*(32.9)の約1.2倍であった。福岡県(55.0)、宮崎県(54.0)、愛知県(51.4)からの報告が多く、年齢別では5～9歳が全体の約3割を占めた。

流行性耳下腺炎の報告数は2,074人(0.66)で前週比112%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\*(0.38)の約1.7倍であった。山口県(2.4)、愛媛県、新潟県(2.2)からの報告が多く、年齢別では4～6歳が全体の約4割を占めた。

\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

## 📊 月報告対象疾患の発生動向 <2017年1月>

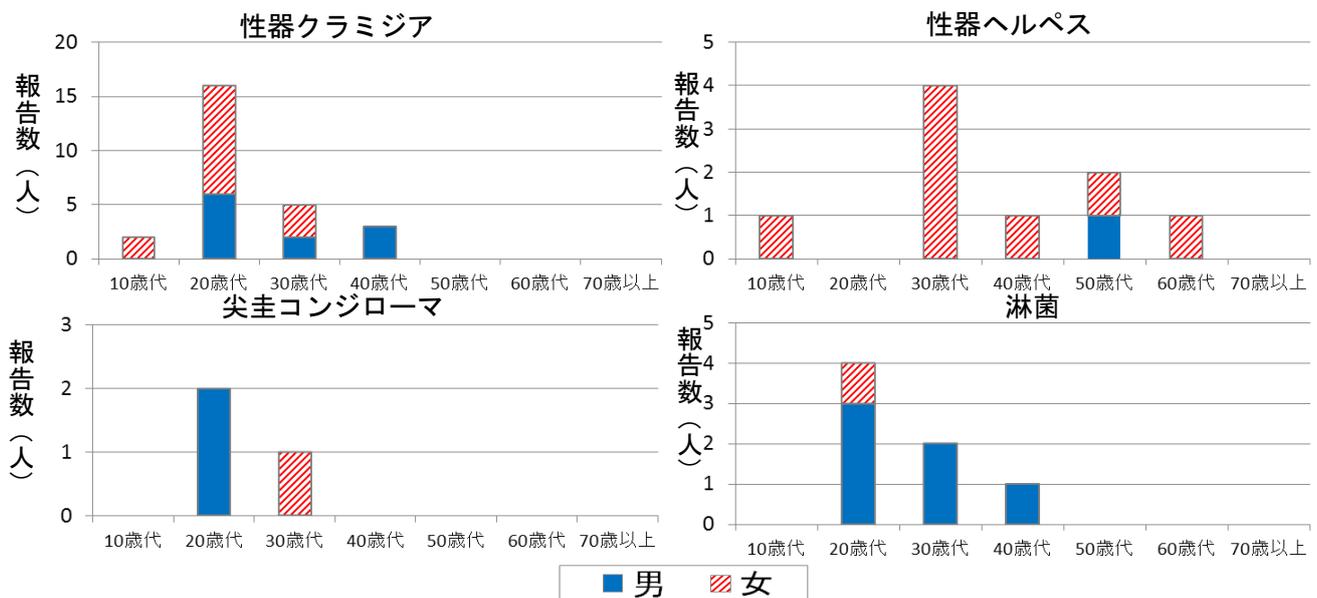
### □性感染症

**【宮崎県】 定点医療機関総数：13**

定点医療機関からの報告総数は45人(3.5)で、前月比118%と増加した。また、昨年1月(1.9)の180%であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数26人(2.0)で、前月の約1.3倍、昨年1月の約1.4倍であった。20歳代が全体の約6割を占めた。(男性11人・女性15人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数9人(0.69)で、前月の約2.3倍、昨年1月の4.5倍であった。(男性1人・女性8人)
- 尖圭コンジローマ：報告数3人(0.23)で、前月の約0.8倍、昨年1月の1.5倍であった。(男性2人、女性1人)
- 淋菌感染症：報告数7人(0.54)で、前月の約0.7倍、昨年1月の約2.3倍であった。(男性6人・女性1人)



**【全国】 定点医療機関総数：987**

定点医療機関からの報告総数は3,737人(3.8)で、前月比100%と横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症1,854人(1.9)で前月比96%、性器ヘルペスウイルス感染症773人(0.78)で前月比101%、尖圭コンジローマ436人(0.44)で前月比105%、淋菌感染症674人(0.68)で前月比110%であった。

### □薬剤耐性菌

**【宮崎県】 定点医療機関総数：7**

定点医療機関からの報告総数は14人(2.0)で前月比175%と増加した。また昨年1月(3.1)の約0.6倍であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数13人(1.9)で、前月の約1.6倍、昨年1月の約0.6倍であった。70歳以上が全体の約9割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告数1人(0.14)であった。(前月及び昨年1月報告なし)

**【全国】 定点医療機関総数：475**

定点医療機関からの報告総数は1,553人(3.3)で、前月比104%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,381人(2.9)で前月比105%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症161人(0.34)で前月比97%、薬剤耐性緑膿菌感染症11人(0.02)で前月比50%であった。

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2017年 第6週(2月6日～2月12日)

疾病名		第5週	第6週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	3187	2162	613	403	383	119	155	174	76	161	78
	定点あたり	54.02	36.64	38.31	40.30	54.71	23.80	31.00	29.00	38.00	26.83	39.00
RSウイルス 感染症	報告数	29	16	10	3	1			1			1
	定点あたり	0.81	0.44	1.00	0.50	0.25	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	1.00
咽頭結膜熱	報告数	27	16	5	2	3	6					
	定点あたり	0.75	0.44	0.50	0.33	0.75	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	81	83	31		7	13	16	14		1	1
	定点あたり	2.25	2.31	3.10	0.00	1.75	4.33	5.33	3.50	0.00	0.25	1.00
感染性胃腸炎	報告数	372	361	61	57	24	80	55	31	13	31	9
	定点あたり	10.33	10.03	6.10	9.50	6.00	26.67	18.33	7.75	13.00	7.75	9.00
水痘	報告数	20	14	4	1	1			3		5	
	定点あたり	0.56	0.39	0.40	0.17	0.25	0.00	0.00	0.75	0.00	1.25	0.00
手足口病	報告数	32	27	9	10	2	1	3		1	1	
	定点あたり	0.89	0.75	0.90	1.67	0.50	0.33	1.00	0.00	1.00	0.25	0.00
伝染性紅斑	報告数	24	11	3	2				1		5	
	定点あたり	0.67	0.31	0.30	0.33	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	1.25	0.00
突発性発しん	報告数	32	30	7	5	3	6	2	1		6	
	定点あたり	0.89	0.83	0.70	0.83	0.75	2.00	0.67	0.25	0.00	1.50	0.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	1	2	2								
	定点あたり	0.03	0.06	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	10	15	1	2	1	1	2	1	2	5	
	定点あたり	0.28	0.42	0.10	0.33	0.25	0.33	0.67	0.25	2.00	1.25	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	11	10	10								
	定点あたり	2.20	2.00	5.00	0.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	2	1	1								
	定点あたり	0.29	0.14	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:5、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2017年第1週～6週)

2類感染症	結核	28例(3)		
4類感染症	E型肝炎	1例	つつが虫病	5例
5類感染症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症	6例
			梅毒	2例(1)

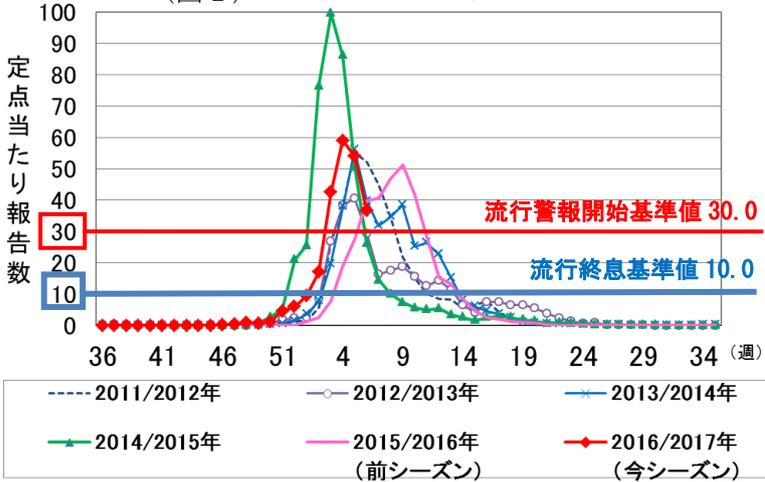
( )内は今週届出分、再掲

# インフルエンザ情報 《県内第6週、全国第5週（再掲）》

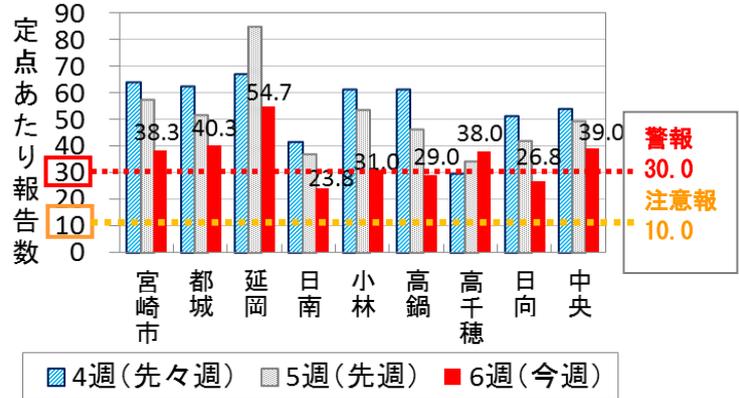
## □ 県内第6週インフルエンザ発生動向

2017年2月6日～2月12日までの1週間で2,162人（定点あたり36.6）の報告があった。前週の約0.7倍と減少し、例年同時期の定点あたり平均値\*（37.7）の約1.0倍であった（図1）。保健所別推移を図2に示す。年齢群別では5歳未満が全体の26%、5-9歳が29%、10-14歳が17%、15-19歳が5%、20-59歳が16%、60歳以上が7%を占めた。（図3）

（図1）インフルエンザ発生状況



（図2）インフルエンザ保健所別推移（3週分）

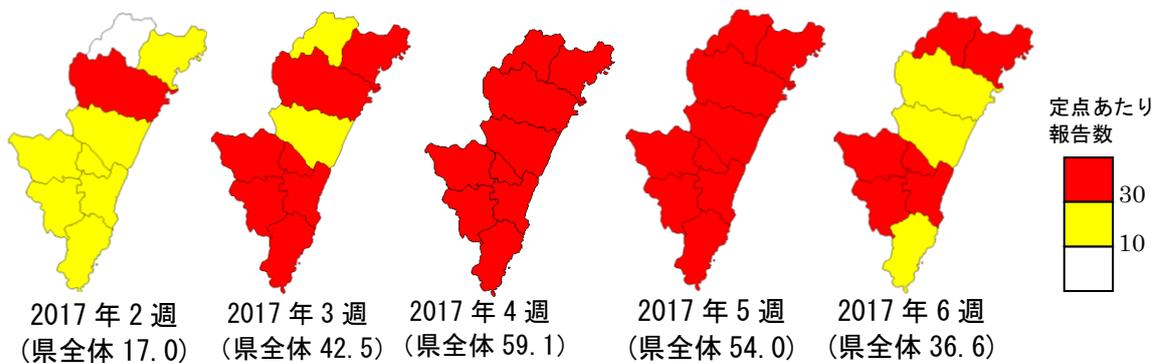


（図3）年齢群別割合の推移（2017年第2週～第6週）

2週 1,003人	21%	21%	15%	11%	24%	8%
3週 2,509人	19%	28%	25%	9%	14%	5%
4週 3,486人	19%	31%	24%	8%	13%	5%
5週 3,187人	22%	28%	22%	6%	16%	6%
6週 2,162人	26%	29%	17%	5%	16%	7%

□ 5歳未満 □ 5～9歳 □ 10～14歳 □ 15～19歳 □ 20～59歳 □ 60歳以上

保健所別インフルエンザ流行レベルマップ 2017年第2週～第6週



## □ 全国第5週インフルエンザ発生動向

2017年1月30日～2月5日までの1週間で189,231人（38.1）で前週比97%とほぼ横ばいであった。福岡県(55.0)、宮崎県(54.0)、愛知県(51.4)からの報告が多い。年齢群別では5歳未満が全体の18%、5-9歳が29%、10-14歳が20%、15-19歳が6%、20-59歳が20%、60歳以上が7%であった。